

東商けいきょう集計結果

(中小企業の景況感に関する調査)

平成25年10～12月期

東京の景況は着実に回復、先行きも更なる改善を見込む

～業況・売上・採算D Iは調査開始以来、最高値を更新～

○「業況D I」(前年同期比・全業種)は、▲5.6(前回調査比+4.5ポイント)と4期連続で改善した。「悪化」企業の割合が調査開始以来、最低の26.5となり、景況の回復感は底辺にも及んでいる。業種別では、建設業で大幅に改善が見られ、過去最高の20.0となるものの、小売業、サービス業は小幅に悪化しており、業種ごとにばらつきが見られる。来期の見通しは1.9(今期比+7.5ポイント)と、プラス水準に転じる見込み。

○「売上D I」(前年同期比・全業種)は、0.6(前回調査比+10.4ポイント)と改善し、調査開始以来、初めてプラスに転じた。全業種で改善し、特に建設業では改善幅が大きい(前回調査比+27.7ポイント)。来期の見通しは、7.3(今期比+6.7)と上昇を見込んでおり、更なる改善の見通し。

○「採算D I」(今期水準・全業種)は13.2(前回調査比+6.2ポイント)となり、7期連続で黒字超を維持した。全業種で改善が見られるものの、小売業は他業種と比べ回復が遅れており、▲7.6とマイナス水準にある。

○「資金繰りD I」(前年同期比・全業種)は、▲9.5(前回調査比-1.3ポイント)となったが、「民間金融機関の貸出姿勢D I」(前年同期比・全業種)は、0.3(前回調査比+3.4ポイント)と改善し、約6年ぶりにプラスに転じた。

【調査要領】

○調査期間：平成25年11月6日～11月15日

○調査対象：東京23区内の中小企業2,427社

○調査項目：業況、売上、採算(経常利益)、資金繰り、民間金融機関の貸出姿勢

○調査方法：FAXおよび経営指導員による聴き取り

○回答数：1,007社(回答率41.5%)

<業種構成>・製造業246社(24.4%)・建設業115社(11.4%)・卸売業157社(15.7%)・小売業119社(11.8%)・サービス業370社(36.7%)

※ 本集計結果におけるD I値とは、「好転」「良い」「増加」「好調」「黒字」「緩和」「緩い」と回答した企業-「悪化」「悪い」「減少」「不調」「赤字」「厳しい」と回答した企業の割合。

※ 全ての質問について、割合は四捨五入を行っているため、必ずしも合計が100.0%にならない。

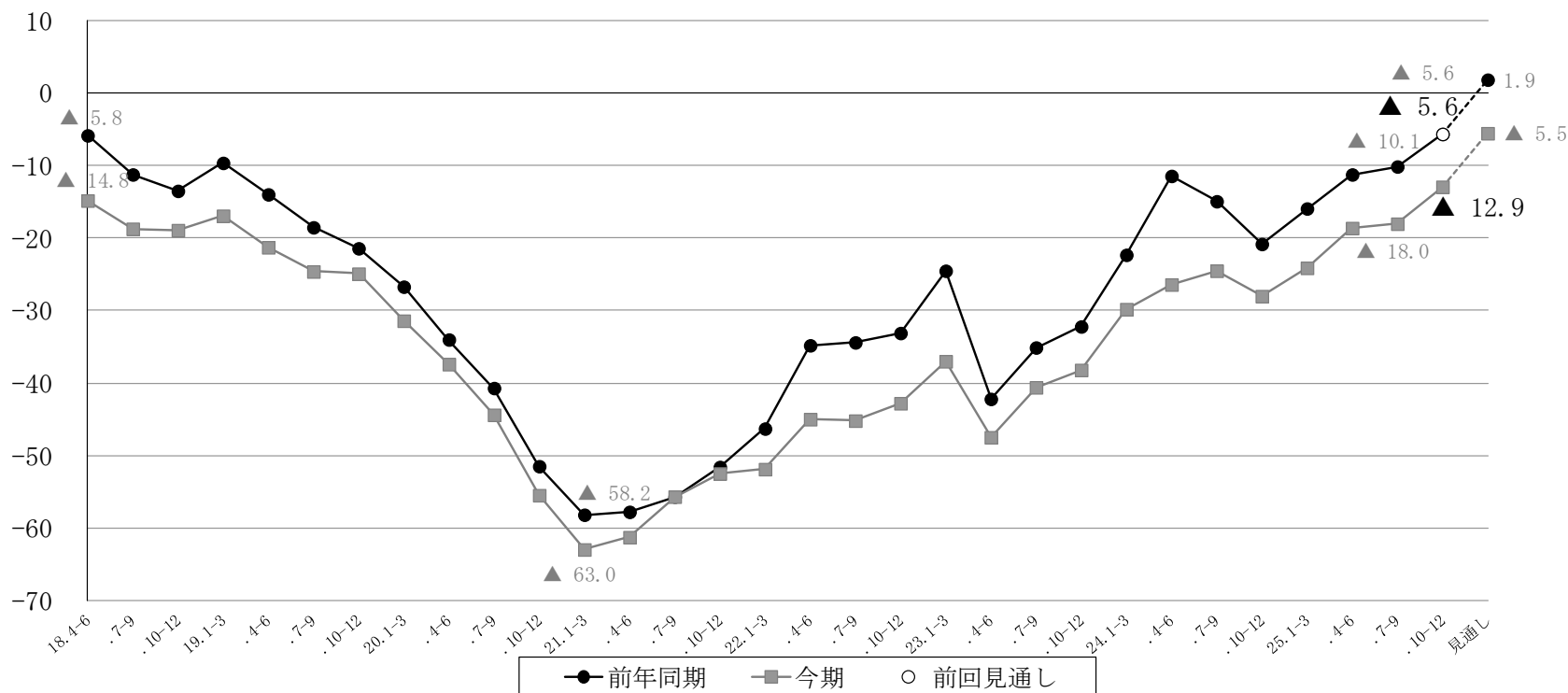
※ 本調査結果の集計にあたっては、独立行政法人中小企業基盤整備機構が実施している「中小企業景況調査」の調査結果を一部活用している。

1. 業況

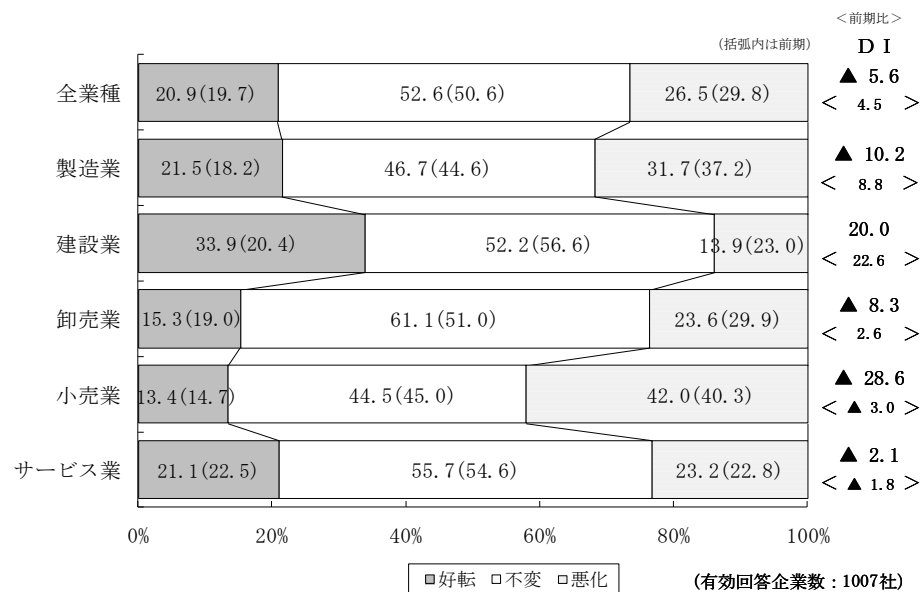
○「業況DI」（前年同期比・全業種）は、▲5.6（前回調査比+4.5ポイント）と4期連続で改善した。「悪化」企業の割合が調査開始以来、最低の26.5となり、景気の回復感は底辺にも及んでいる。業種別では、建設業で大幅に改善が見られ、過去最高の20.0となるものの、小売業、サービス業は小幅に悪化しており、業種ごとにばらつきが見られる。来期の見通しは1.9（今期比+7.5ポイント）と、プラス水準に転じる見込み。

【企業の声】オリンピック開催地決定や消費税率の引き上げ前の駆け込みなどから、マンション需要が増え売上及利益に寄与。（建設業：設備工事）
 自動車メーカーの研究開発が活発になり、需要が増えた。（製造業：自動車エンジンの研究開発用計器）
 10月は毎週末、台風の接近があり来店客が減少。11、12月が前年並みに戻っても10月の落込みの回復は困難。（小売業：インテリア雑貨）

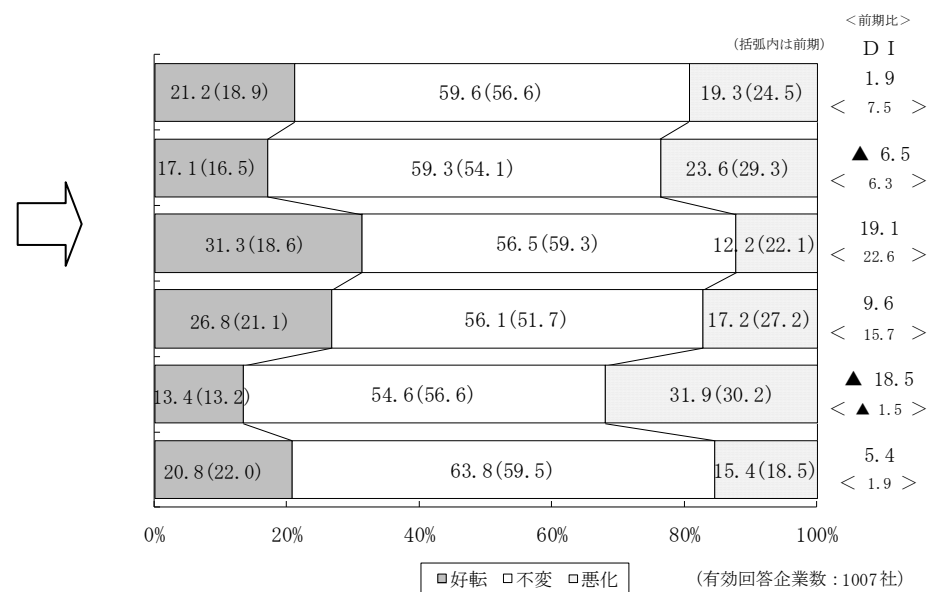
業況DIの推移（全業種）



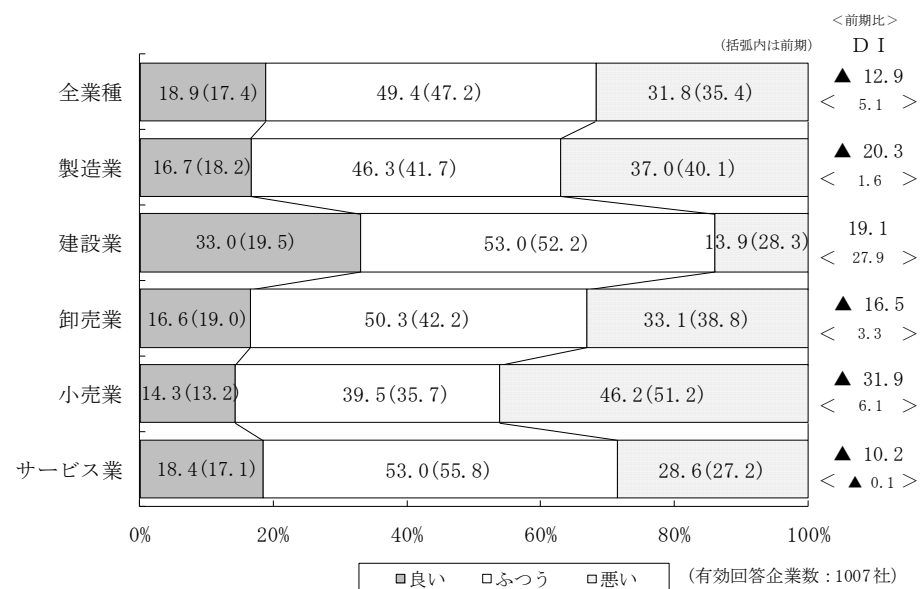
①今期の業況（前年同期比）



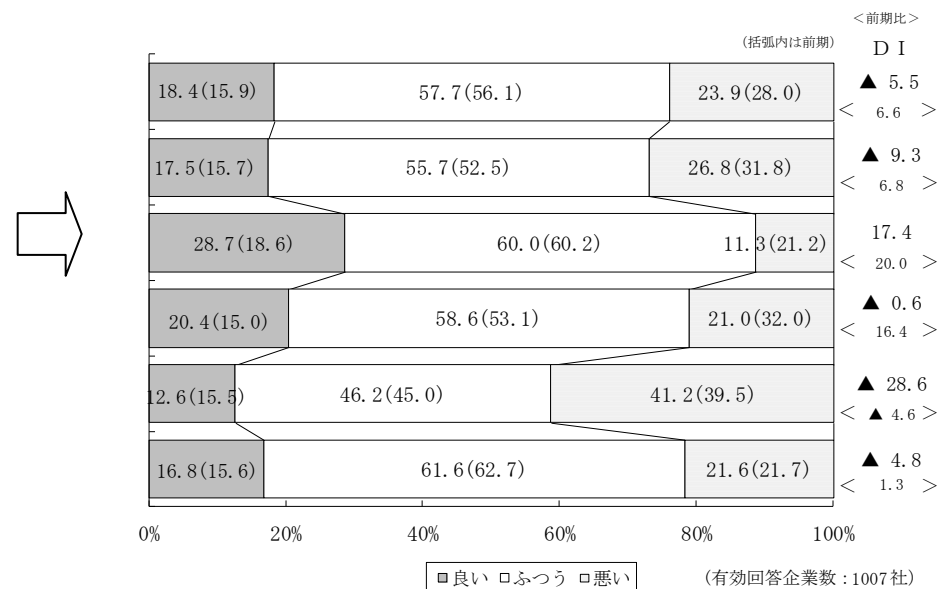
②来期の業況の見通し（前年同期比）



③今期の業況（水準）



④来期の業況の見通し（水準）



2. 売上

○「売上DI」（前年同期比・全業種）は、0.6（前回調査比+10.4ポイント）と改善し、調査開始以来、初めてプラスに転じた。全業種で改善し、特に建設業では改善幅が大きい（前回調査比+27.7ポイント）。来期の見通しは、7.3（今期比+6.7）と上昇を見込んでおり、更なる改善の見通し。

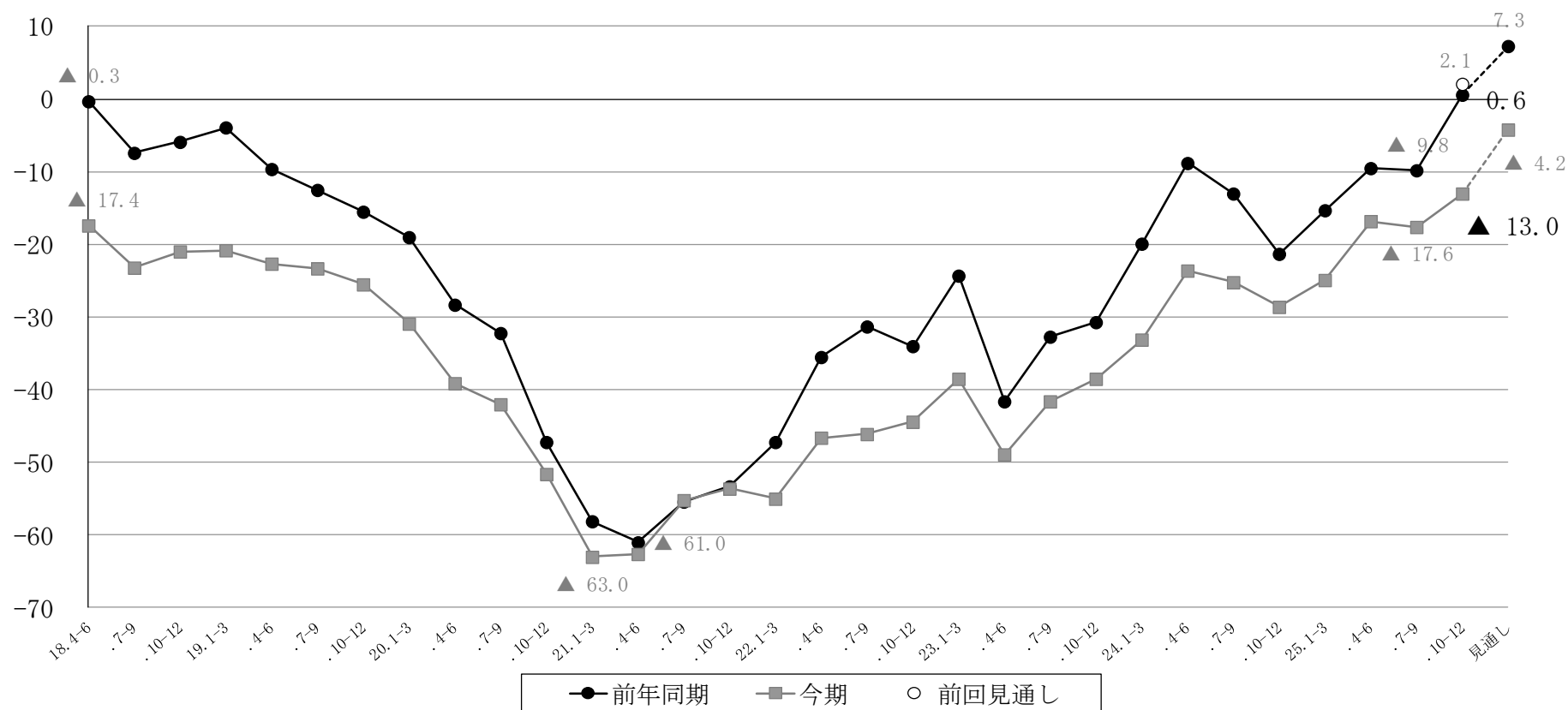
【企業の声】消費増税前の駆け込み需要により、一般住宅の建設が伸び受注が増えている。（建設業：管工事業）

円安の影響により、輸出している製品価格が上昇し売上が増加。（卸売業：医薬製造機器）

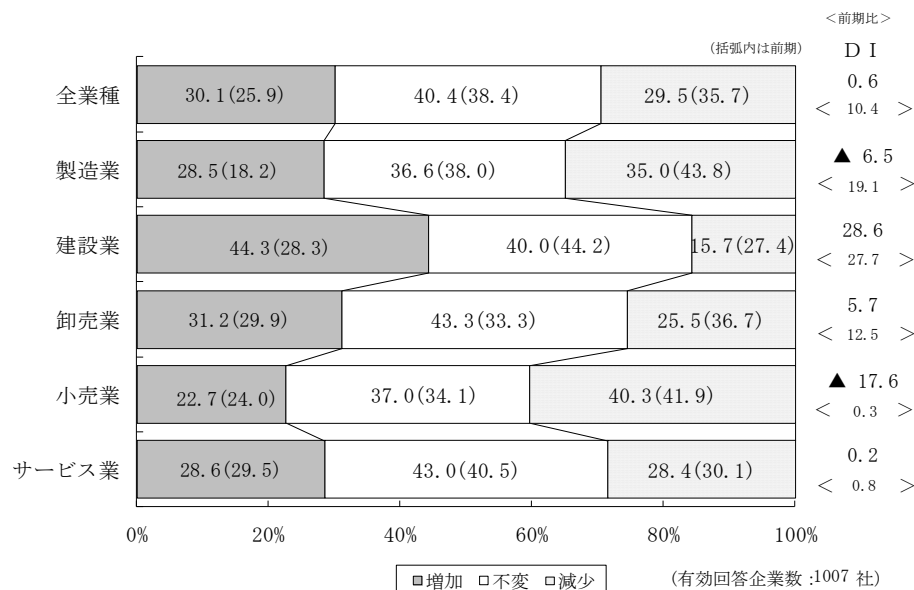
一台当りの売上、一人当りの売上が確実に伸びている。（サービス業：タクシー業）

インターネットにより、広く消費者に知られるようになり、安定した売上が見込める。（小売業：宝飾品）

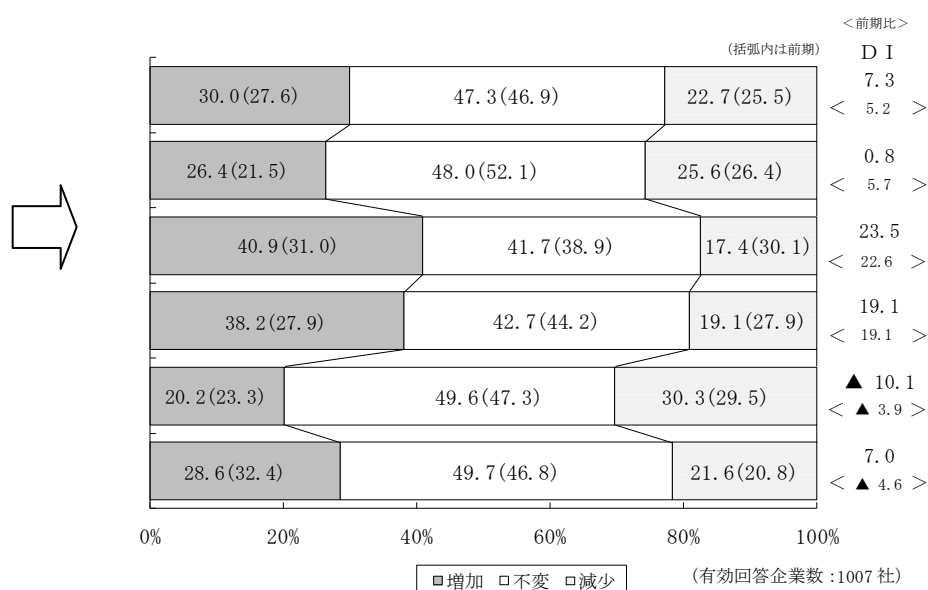
売上DIの推移（全業種）



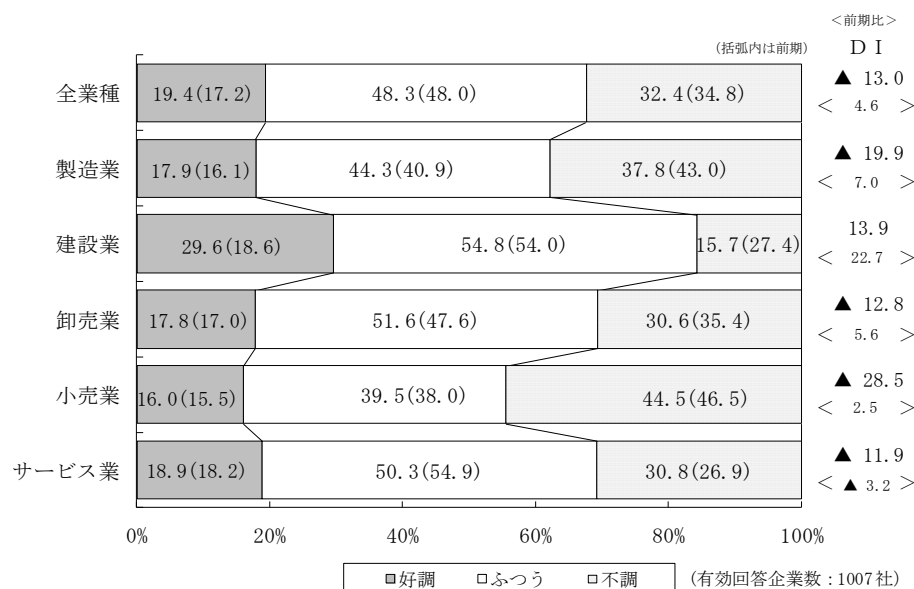
①今期の売上（前年同期比）



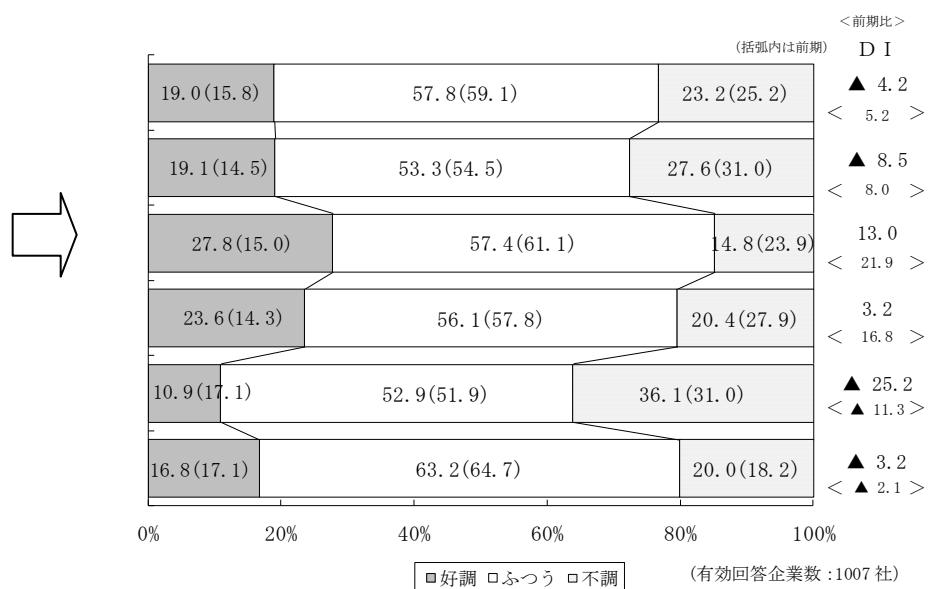
②来期の売上の見通し（前年同期比）



③今期の売上（水準）



④来期の売上の見通し（水準）

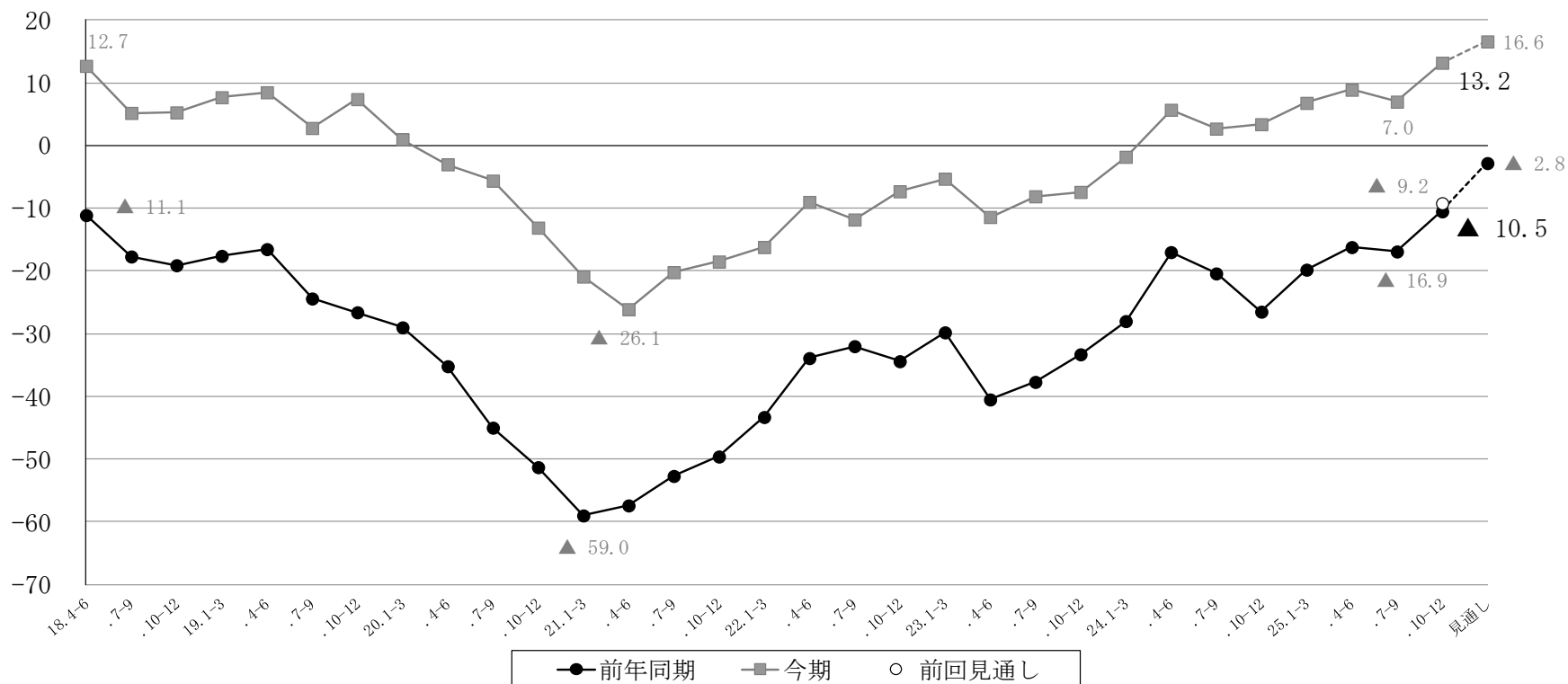


3. 採算（経常利益）

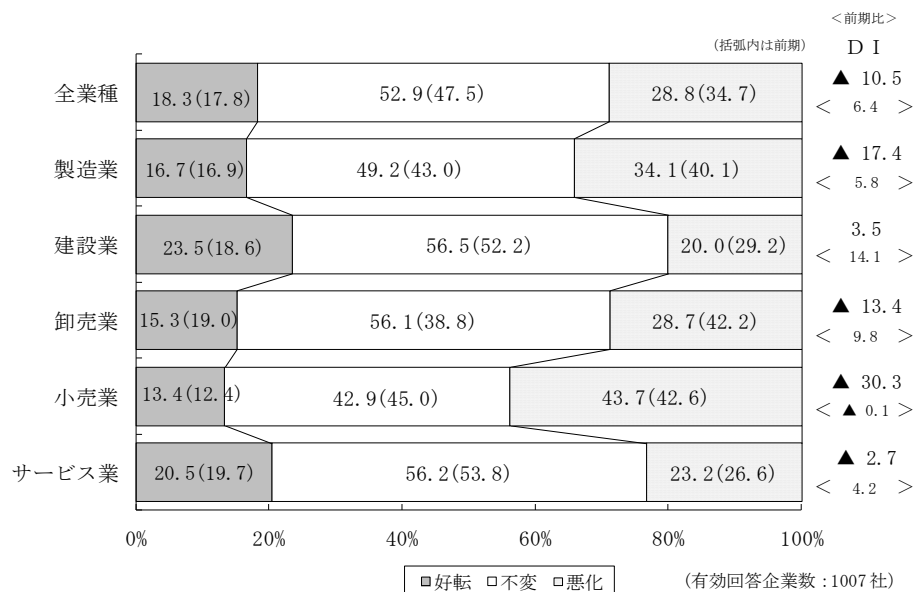
○「採算D I」（今期水準・全業種、「黒字」と回答した企業－「赤字」と回答した企業の割合）は13.2（前回調査比＋6.2ポイント）となり、7期連続で黒字超を維持した。全業種で改善が見られるものの、小売業は他業種と比べ回復が遅れており、▲7.6とマイナス水準にある。

【企業の声】 商社経由の取引をやめたことで原材料費が下がった。既存の取引先は確保しつつ新規の引合いもある。（製造業：ウレタンゴム製品）
 主要顧客の自動車やバルブのメーカーの積極的な設備投資に支えられ当面は好調。（卸売業：工作機械の輸入・アフターケア）
 アベノミクスが消費者の気分を盛り上げ、客数、客単価が伸びた。（サービス業：レストラン船の運航）
 アベノミクスの影響により事務所の移転が多くなり採算が好転。（サービス業：一般引越）

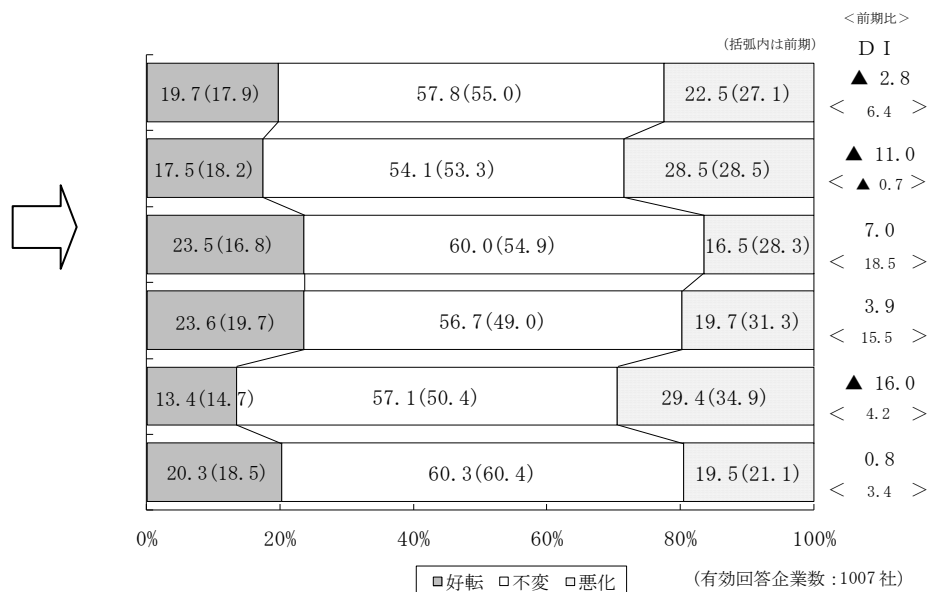
採算D I の推移（全業種）



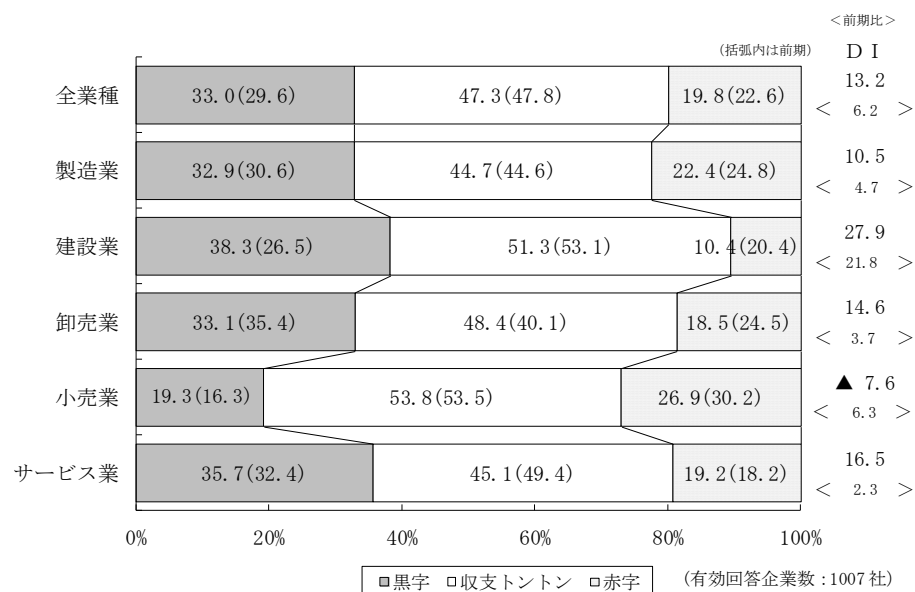
①今期の採算（前年同期比）



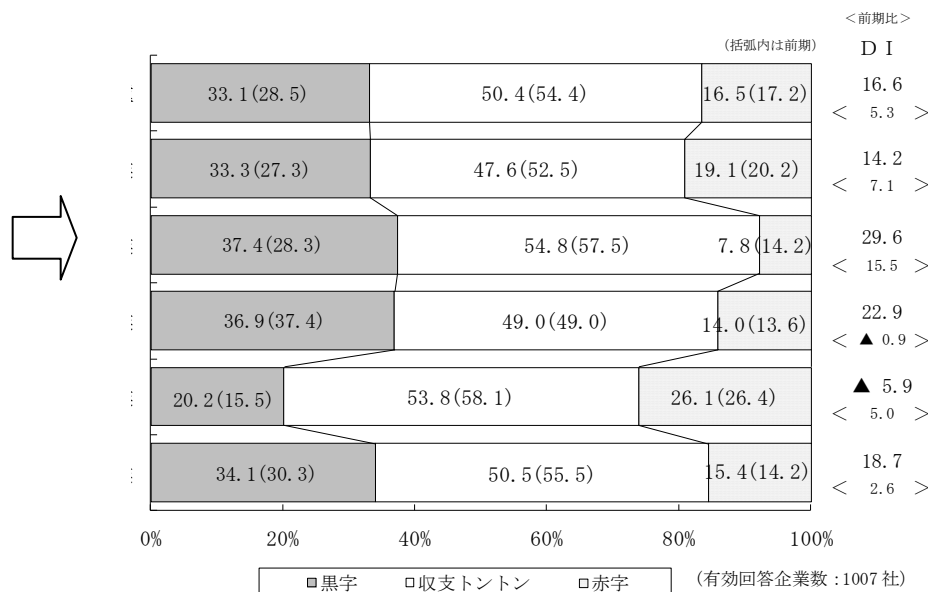
②来期の採算の見通し（前年同期比）



③今期の採算（水準）



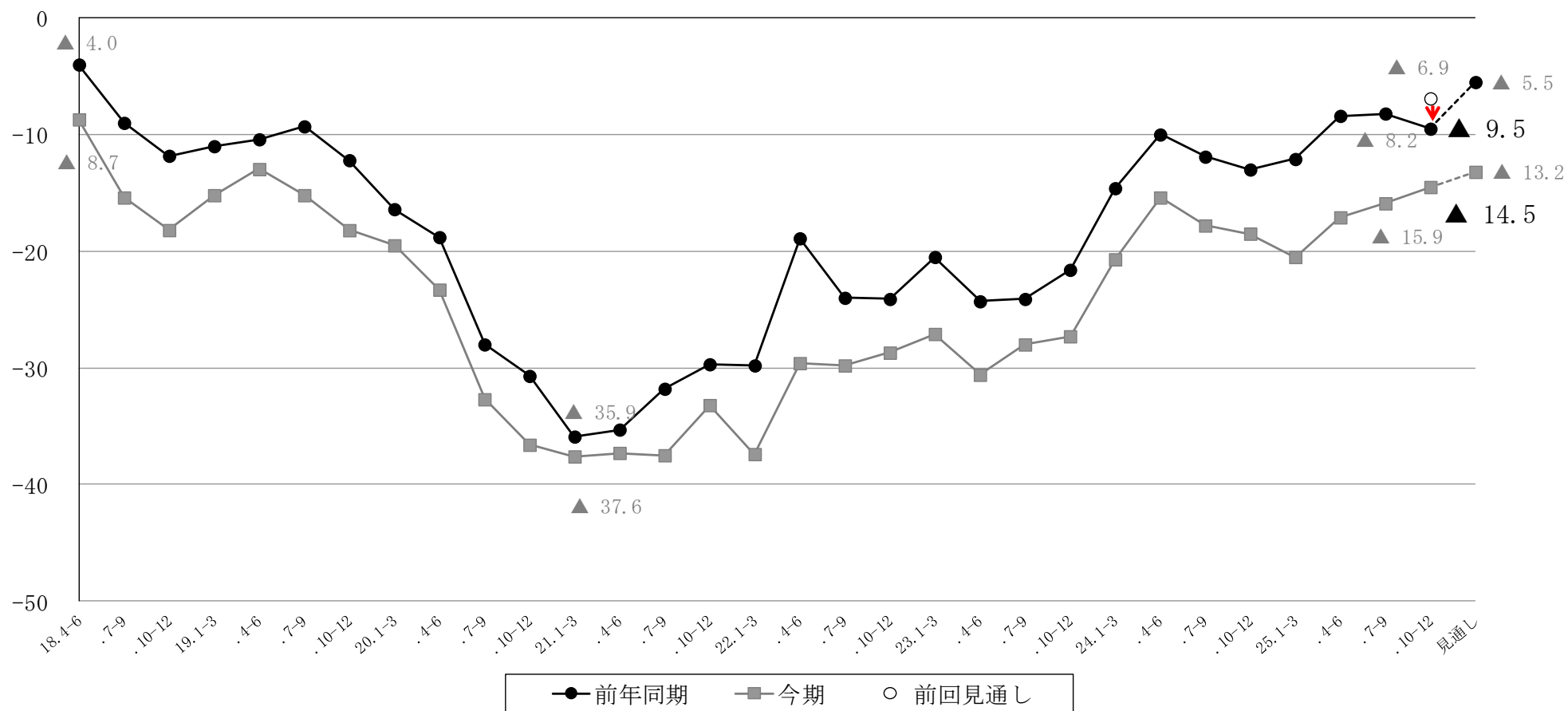
④来期の採算の見通し（水準）



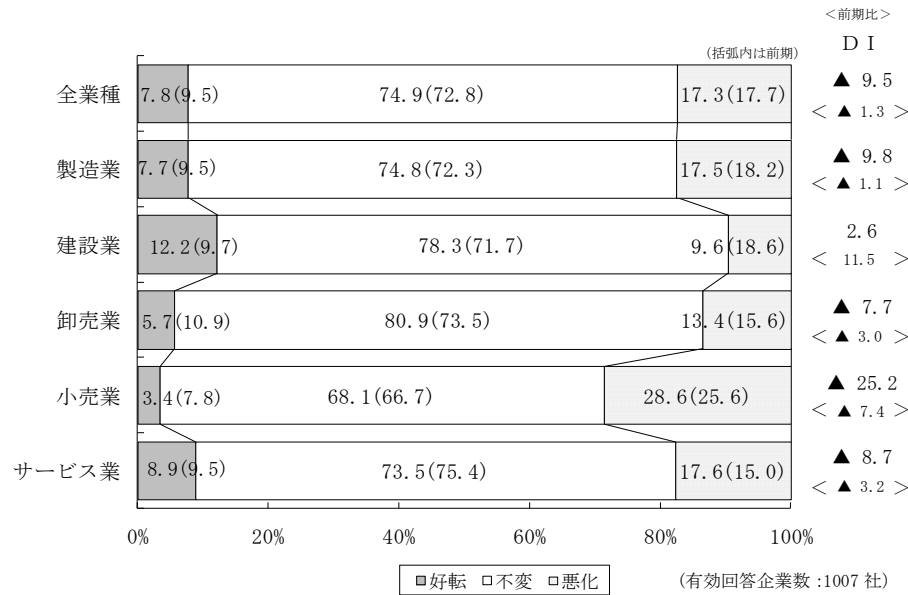
4. 資金繰り

○「資金繰りDI」(全業種)は、▲9.5(前回調査比-1.3ポイント)となった。

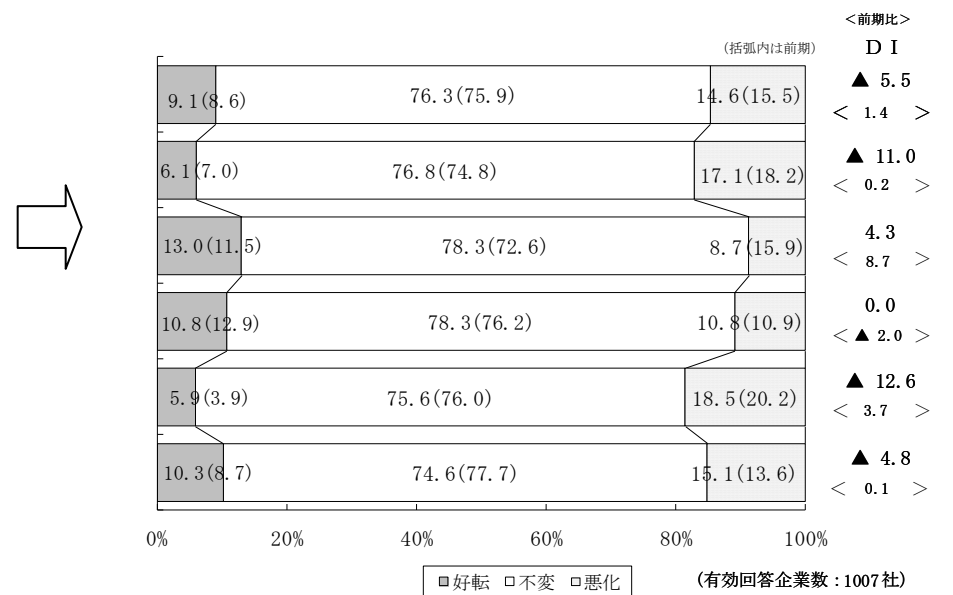
資金繰りDIの推移(全業種)



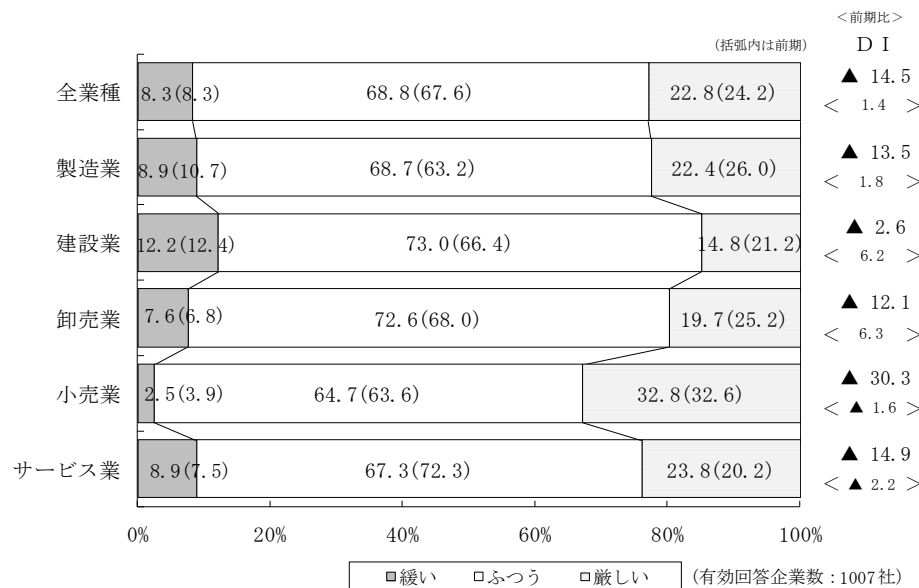
①今期の資金繰り（前年同期比）



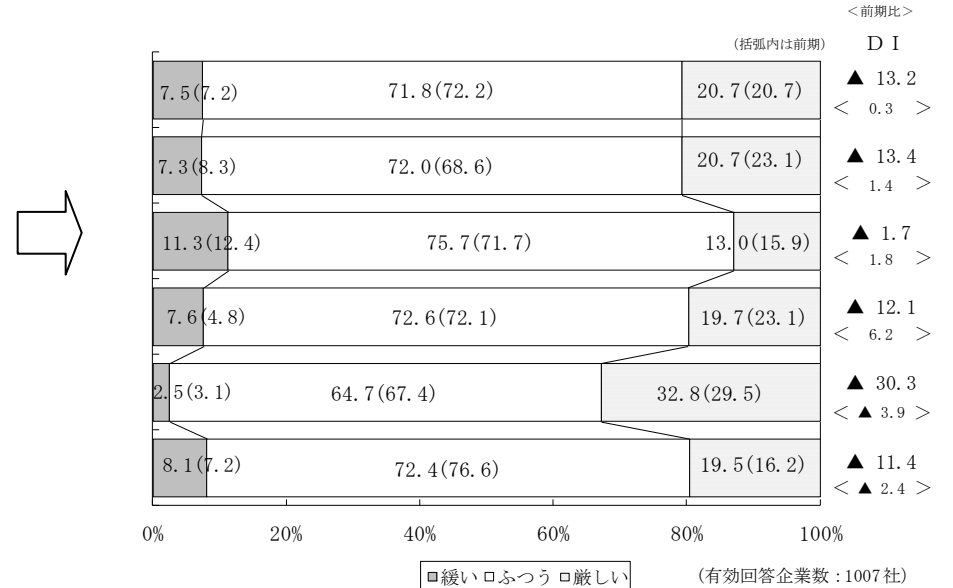
②来期の資金繰りの見通し（前年同期比）



③今期の資金繰り（水準）



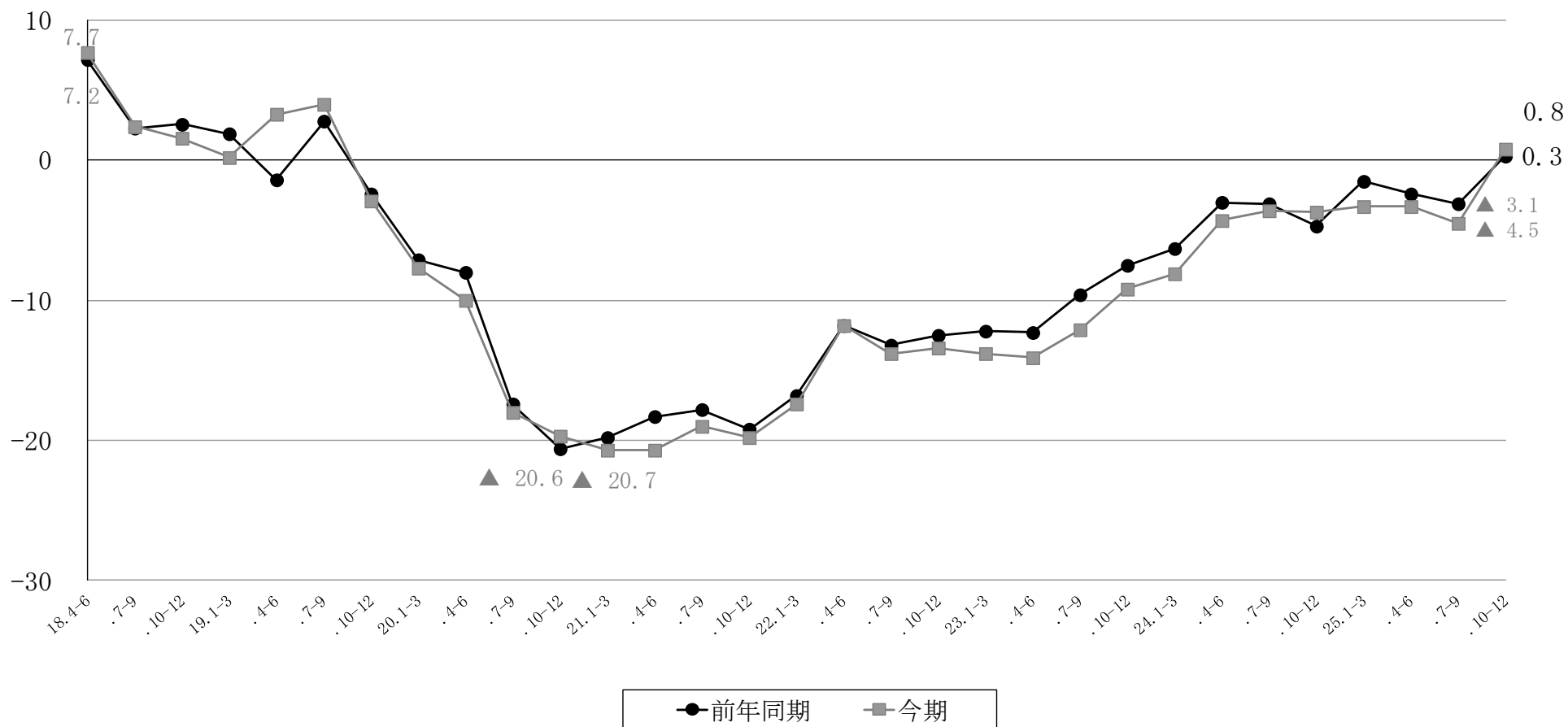
④来期の資金繰りの見通し（水準）



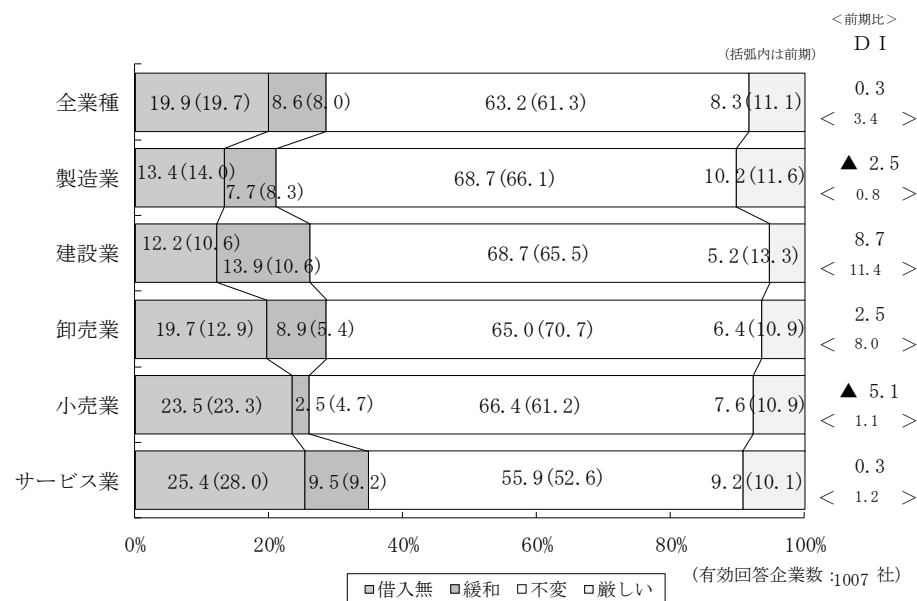
5. 民間金融機関の貸出姿勢

○「民間金融機関の貸出姿勢D I」（全業種）は、+0.3（前回調査比+3.4ポイント）、今期水準は+0.8（前回調査比+5.3ポイント）と改善し、前年同期比、今期水準ともに約6年ぶりにプラスに転じた。

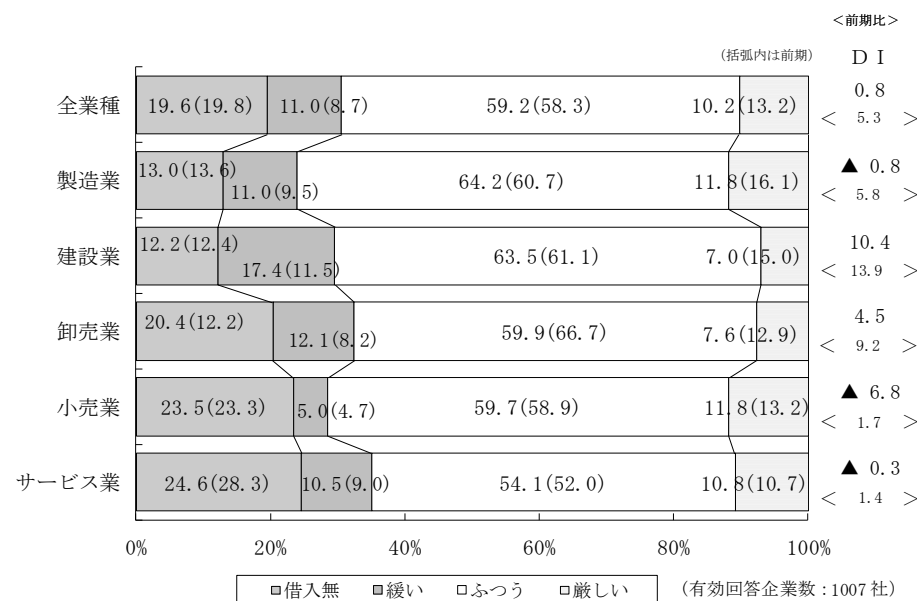
貸出姿勢D I の推移（全業種）



①民間金融機関の貸出姿勢（前年同期比）



②民間金融機関の貸出姿勢（今期水準）

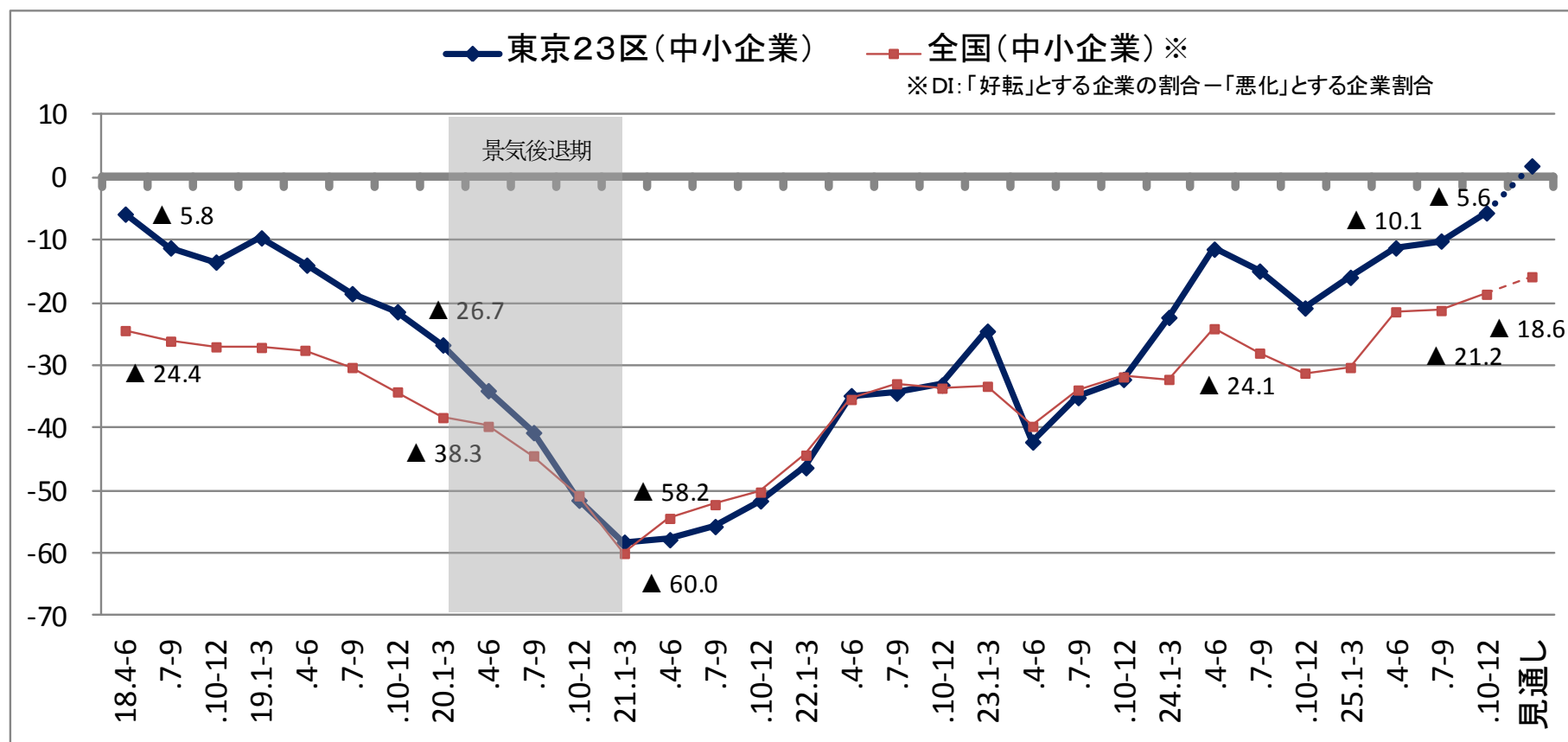


参考 1

○東京23区の中小企業「業況DI」（前年同期比）は、全国と比べて高い傾向にあるが、景気後退期の悪化幅（-31.5）は、全国（-21.7）よりも大きく、落ち込みが激しい（全国の約1.5倍）。また、景気回復期においても改善幅（+52.6）が、全国（+41.4）と比べて大きく、持ち直しが早いことがわかる。

※ 景気後退期の悪化幅：（東京）▲58.2-▲26.7=-31.5 （全国）▲60.0-▲38.3=-21.7
 景気回復期の改善幅：（東京）▲5.6-▲58.2=+52.6 （全国）▲18.6-▲60.0=+41.4

<業況DI> 東京23区と全国の比較（前年同期比・全業種）

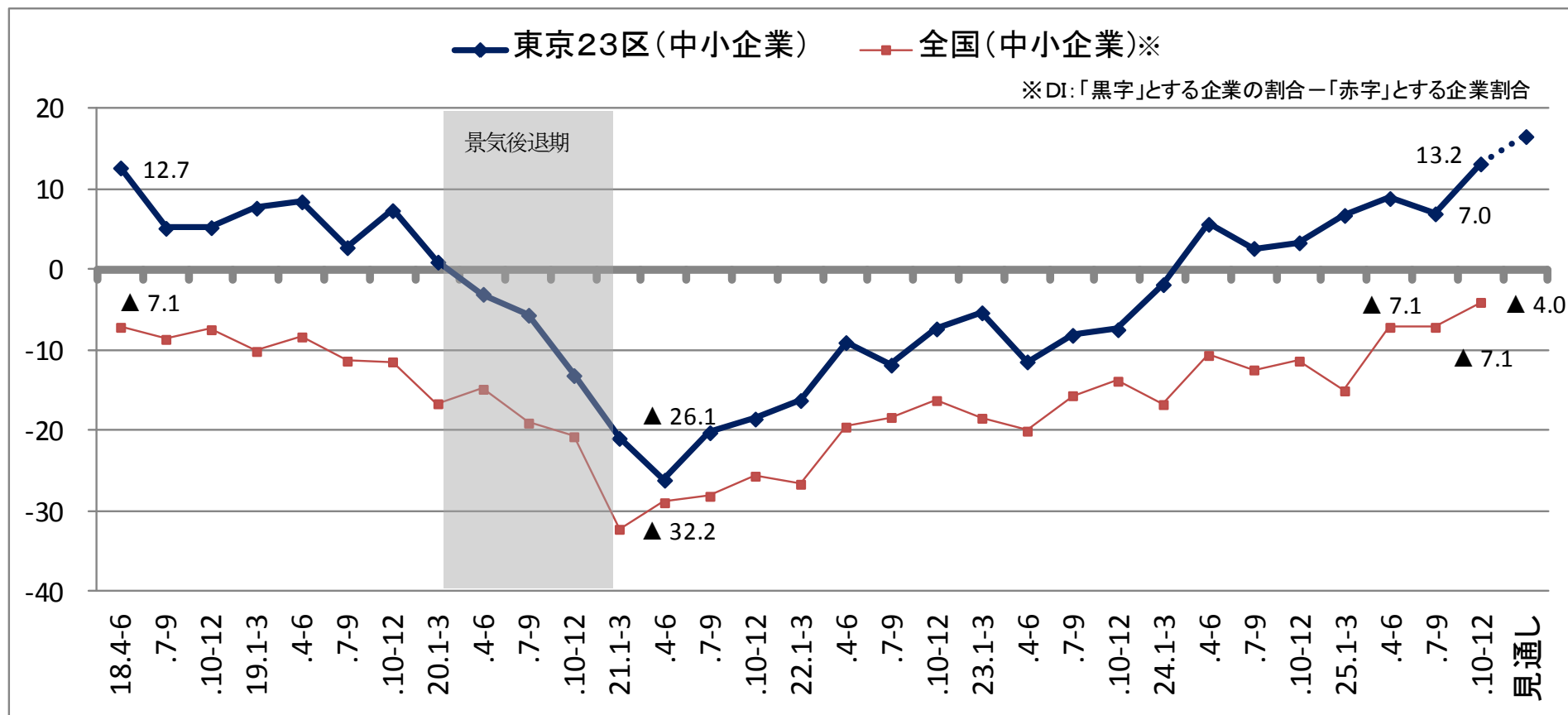


※独立行政法人中小企業基盤整備機構「中小企業景況調査」より作成

参考2

○東京23区の中小企業「採算DI」（今期水準：「黒字」と回答した企業－「赤字」と回答した企業の割合）は、黒字の割合が大きく増加して13.2となり、これまでの最高値（12.7）を更新した。東京では、7期連続してプラス水準となっているが、全国は▲4.0とこれまでの最高値（▲7.1）を上回ったものの、依然として採算は厳しい状態が続いている。

<採算DI> 東京23区と全国の比較（今期水準・全業種）



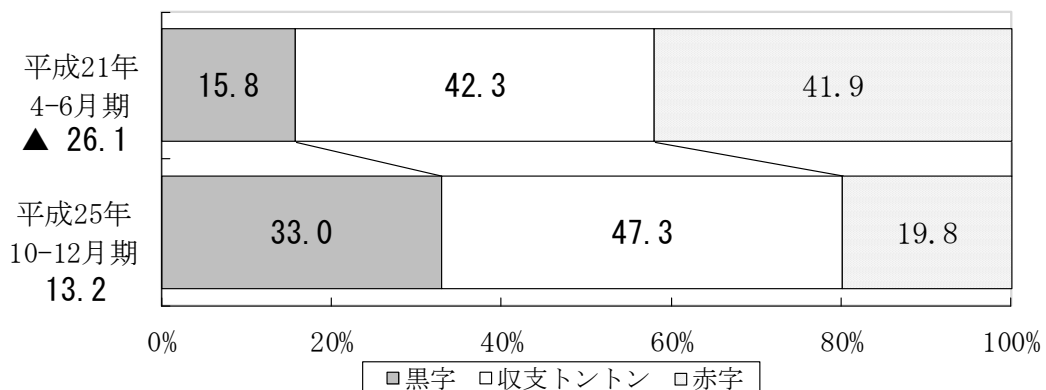
※独立行政法人中小企業基盤整備機構「中小企業景況調査」より作成

参考3 採算（経常利益）について（5ページ参照）

○東京23区の中小企業「採算DI」（今期水準：「黒字」と回答した企業－「赤字」と回答した企業の割合）は13.2となり過去最高となった。最低値は、リーマンショックから約半年後の平成21年4－6月期の▲26.1。今期は、赤字企業の割合（19.8）が、平成21年4－6月期（41.9）の半分以下となり、黒字及び収支トントンと回答した企業を合わせると、8割（33.0+47.3=80.3）を超えている。

＜採算DI＞ 東京23区と全国の比較（今期水準・全業種）

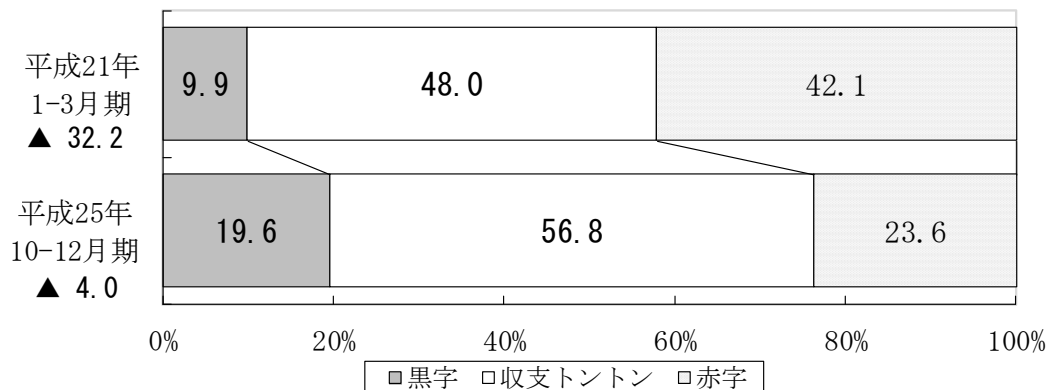
＜東京23区＞



(黒字) + (収支トントン)
 $15.8 + 42.3 = 58.1$

$33.0 + 47.3 = 80.3$

＜全国＞※



$9.9 + 48.0 = 57.9$

$19.6 + 56.8 = 76.4$

※独立行政法人中小企業基盤整備機構「中小企業景況調査」より作成